

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2373900550
法人名	株式会社エイム
事業所名	グループホーム ももたろう
訪問調査日	平成20年5月25日
評価確定日	平成20年6月24日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2373900550		
法人名	株式会社エイム		
事業所名	グループホーム ももたろう		
所在地	稲沢市小池二丁目25番6 (電話) 0587-23-7774		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年5月25日	評価確定日	平成20年6月24日

【情報提供票より】(平成20年4月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年5月14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 15人, 非常勤 7人, 常勤換算	9.03人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000~50,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有 100,000 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 150,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	280 円	昼食	490 円
	夕食	490 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成20年4月22日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	8名	要介護4	1名		
要介護5	6名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	64歳	最高	93歳
協力医療機関名	やまかみ内科循環器科				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR稲沢駅、名鉄国府宮駅の間に位置し、北側は公園、南には田畑が広がっている。日曜には公園にこどものはしゃぐ声があふれ、南側の田圃には小動物やそれを狙う鳥などの姿が季節を感じさせてくれる。入居者は広いリビングで話し合ったり、共同で洗たく物たたみをしたりして一日を過ごし、寝たきりでない限り居室にこもることはない。午後になると管理者のこどもが保育園からホームに帰ってきて三世住宅のようににぎやかになる。入居者アンケートからもこどもがいることで入居者への良い刺激になっていると好意的に受け止めている。また、1階は犬、2階は猫を飼っており家族も心の癒しを感じている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム機能の地域還元について、他のホームに入居した近所の住民から、そのホームの対応について職員を通じて相談を受けたり、地域住民から認知症についての相談を受けるようになった。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は今回の自己評価を通じ、職員の個別のレベルの違いが明確になったと感じている。また、毎日の介護が独りよがりであったり、足りない部分を教えてくれるいい機会だと捉えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	協力医の医師、地域包括支援センターの主任、民生委員、入居者家族、管理者で構成され、3カ月に1度開催される。3月に初回を開催したばかりで、メンバーからはグループホームがどんな所なのか分からないという声もあり、まだ浸透していないと感じている。次回は認知症についての説明を目的に開催する予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会はないがほとんどの家族が頻繁に来訪し、その都度希望、意向を聴取している。入居者の現状は管理者または、チーフから家族に報告される。意見箱も設置されているが、未だかつて利用されたことはなく、家族は直接職員に要望を伝えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、ホームに住所がある人は老人会にも加入している。近くの保育園の運動会を参観したり、町内の行事にも参加している。ホームは住民としてではなく、企業扱いされるため、地域の職員が自宅への回覧板で地域情報入手している。散歩の際の挨拶など地域に溶け込む努力を重ねている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気、我が家のように自由に、入居者のライフスタイルを大切に、個人個人にあった『アットホームな介護』の実現を支援します」との理念は開設時の代表の方針に沿い、ももたろうのカラーを加えたものである。開設時の定めから現在に至っている。		入居者がその地域の中で人としての尊厳を保ちつつ、生き生きとして生活するイメージを地域密着型サービスとしての理念に盛り込まれることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はフロア中央、玄関に掲示されている。日々の介護に流されないよう毎朝の申し送りで、その日一日理念に沿って特に配慮すべきことを「今日の介護目標」として、個々に発表し、その日はそのことに集中して介護している。親しいながらも馴れ馴れしくならないような距離感を大切にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ホームに住所がある人は老人会にも加入している。近くの保育園の運動会を参観したり、町内の行事にも参加している。ホームは住民としてではなく、企業扱いされるため、地域の職員が自宅への回覧板で地域情報を入手している。散歩の際の挨拶など地域に溶け込む努力を重ねている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は今回の自己評価を通じ、職員の個別のレベルの違いが明確になったと感じている。また、毎日の介護が独りよがりであったり、足りない部分を教えてくれるいい機会だと捉えている。職員は「できていない」と思い知らされたり「どうやって取り組めばいいのか」との思いが募り、できていると感じたことも色褪せてしまったとの声もあった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>協力医の医師、地域包括支援センターの主任、民生委員、入居者家族、管理者で構成され、3カ月に1度開催される。3月に初回を開催したばかりで、メンバーからはグループホームがどんな所なのか分からないという声もあり、まだ浸透していないと感じている。次回は認知症についての説明を目的に開催する予定である。</p>		<p>今年3月に第1回が開催されたばかりであり、ホームとしても手探り状態で進めている状況である。今後、地域住民を巻き込み、評価への取組の報告やグループホームの啓発につながるような活動に期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市からは空室情報の確認があり、ホームからは福祉担当者に状態変化があった場合の報告、季節の挨拶を欠かさないようにしている。家族の依頼を受け障害者手帳の交付手続き、障害年金の手続き支援を行っている。</p>		<p>行政との間にまだ距離感が見られる。ホームからの要請、情報提供もなく、行政が保有する情報の引き出しや利用などにつき、職員間の相談または、他のホームの事例を参考にし、行政との協働を図りたい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ほとんどの家族が頻繁にホームを来訪し、そのたびに現状の報告、希望の聴取に努めている。来られない家族には個別に電話、メール、FAX、手紙などで随時報告している。その場合は写真も添付するよう努めている。家族の来訪の際には、出納帳の確認をしてもらっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会はないがほとんどの家族が頻繁に来訪し、その都度希望、意向を聴取している。入居者の現状は管理者または、チーフから家族に報告される。意見箱も設置されているが、未だかつて利用されたことはなく、家族は直接職員に要望を伝えている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はなく、フロア間の異動も、夜勤者確保のために行った以外はない。担当制をとらず、誰もが馴染みの関係を築いているため、職員の突然の離職で入居者にダメージを与えることもない。イベントは1、2階共同で開催するため、別のフロアの職員とも馴染みの関係ができています。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画はなく、各方面からの研修案内を受け、研修内容に該当する人を人選し、有給扱いで正社員を主に参加させている。研修内容は朝の申し送り、休憩室での回覧などで情報を共有している。キャリアに関係なく法人独自の資格認定がありそれが給与に反映されるシステムを採っている。		正社員以外にもパート職員も含め研修受講の機会を与え、ホーム全体のレベルアップを検討されたい。研修受講の際は内部研修、勉強会などで情報の共有に努められたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	稲沢市地域介護事業者連絡協議会に加盟している。1~2カ月に1度交流会が開催されている。主にフロアチーフが参加している。加盟して日が浅いため会で情報収集することは少なく、チーフの個人的な繋がりで見聞を得ている。		主にチーフが参加している。管理職だけではなく一般職員が参加し他のホームとのネットワーク作り、情報交換、困難事例解決のヒントを得る等、よりサービス向上につながるよう取り組みを期待したい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には市内の他ホームの見学を勧め、比較の上での入居をお願いしている。体験入居はいつでも受け入れ可能であり、午前から昼食を挟んでの利用、空室があれば宿泊利用も受け入れている。ケアマネジャー、ケースワーカーからの問い合わせで、病院やショートステイ、施設からの入居が多く、その場合は必ず訪問しサマリー（情報）を受け取っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は子育てと介護を両立しており、それは入居者が生後8カ月から子育てを助けてくれたお陰だと感謝している。訪問時にも入居者に違和感なく幼児が溶け込み、三世帯住宅の様相を呈していた。職員も夜勤や疲れた時に入居者から労いの言葉をかけられ、日ごろの疲れを癒されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>頻りに娘が訪問しているのに、「娘はどうした」と気遣う入居者や、具合の悪いわが子の様態を心配する入居者もいる。希望聴取のため、相性の良い職員を担当させ、本人の希望を聞きだす努力をしている。そのおかげでほとんどの方の要望は掴んでいるが、把握困難な場合は家族に相談している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々入居者の状況をチーフが職員から聞き取りを行っている。職員の意見をもとに、管理者、チーフ、ケアマネジャーで計画が作成される。本人や家族の希望も取り入れられている。介護計画書はいつでも確認できるようにファイルに綴じられている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しは短期目標3カ月、長期目標6カ月で行っている。職員の気づきを個別記録に記入し、重要事項は連絡帳を活用し情報を共有している。入居者に変化が見られた場合はカンファレンスを行い、随時見直しがされている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々の方の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>退居した元入居者に、必要に応じ現状確認訪問を行っている。入院、施設入所の場合もお見舞いに訪れている。入居者の入院時には洗濯物を取りに行ったり、冠婚葬祭の付き添いの支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は基本的に家族にお願いしているが、依頼があれば付き添いの支援をしている。提携医療機関は2週間毎に往診があり、看護師が職員として2名配置され健康管理している。看護職員は近くに居住しており、夜間の対応も可能となっている。近隣の精神科医、歯科医は必要に応じて往診、指導を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については契約時に口頭で説明されている。常時医療的管理の必要がなく、本人、家族が希望される場合は看取りを行う。終末ケアについては家族の意向を確認し、医師の協力の下、安心感をもってもらえる介護を考えている。職員には申し送りなどで説明している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー、個人情報については雇用契約に記載し入社時に説明されている。守秘義務事項漏洩防止等を厳守している。入居者の記録は家族の了解を得て、ホールで見守りながら記録している。職員は入居者と接する場合は、日々言葉かけに注意し、プライドを傷つけないよう努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1、2階で月水金と火木土に分け週3回の散歩を行っている。車いすの方も連れだって近くの公園を一周するコースが定番となっている。買い物の要望があれば個別に対応し、結婚式、葬式への付き添い、帰省の送迎も支援している。現在はいないが喫煙も可能であり、飲酒の要望にはビールなど提供している。要望に応え図書館へも職員が同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は1週間毎に立て、入居者の希望も取り入れられている。食事の準備や片づけは、できる範囲で職員と一緒にやっている。朝食はパンとご飯が用意され、希望により選択できる。月1回の誕生会には主役(その月生まれの入居者)の好きな食事が用意され、1、2階合同で開催される。職員は必要に応じ介助、見守りを行い2名が食事を共にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回だが、希望があれば毎日の入浴も可能である。入浴とは別に水虫対策で足浴を行っている。一番風呂は順番を決めて交替で入浴してもらい、入居者の希望に合わせている。仲の良い入居者同士の入浴も支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中でできること、できないこと、得意なことを把握している。洗濯物干し、たたみ、食事の準備や片づけなどを入居者が自主的に行っている。日めくりカレンダーをめくる当番、水槽の魚に餌をやる当番など、自然と役割が決まっている。できたことに対し、職員が感謝の言葉を伝えることで、他人に感謝される喜びを持ってもらいたいと願っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員とともに散歩、買い物に出かけている。冬場や梅雨の時期には、ドライブなど日常的に外出支援している。希望があれば個人的にも対応している。春にはお花見などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は施錠されず、入居者は自由に出入りができる。夜間は安全と防犯のために施錠している。日中は4~5人の職員が配置され入居者の安全に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時のマニュアルを作成（蘇生手順、連絡網、組織体制）、職員に説明されている。入居者と散歩中、時々避難場所の確認を行っている。</p>		<p>災害に備え、備蓄品、飲料水の用意をされたい。また、定期的な防災訓練実施に取り組まれたい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>1週間ごとの献立表は栄養士がチェックし、入居者の状態により、キザミ、トロミなどにも対応している。水分は1日1,200～1,400ccを目安に摂取している。体重測定は毎月行われているが、立ち上がりが必要な入居者については日々の状況を目安にして測定は行われていない。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>南側は大きな窓があり、日当たりも良く、明るい玄関、ホール、廊下には背もたれのある大きなソファが置かれ、仲の良い入居者同士がゆっくりと過ごすことができる場所となっている。畳のコーナーもあり、お昼寝等で横になることもできる。ホールには季節感あふれる作品が飾られている。壁には行事などの写真も掲示されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>気温、湿度の状況によりエアコンで調節している。冬場は各居室に濡れタオルを吊るし乾燥予防に努めている。テレビ、使い慣れた家具、ベッドが持ち込まれている。また、カーテンも好みに合わせたものをかけ、お気に入りの小物を飾り、本人が安心して過ごせる居室となっている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。